

(株) ファン・ファクトリー / onActivity Ltd.

ドームスクリーンなど特殊形状のキャンバスに 高解像度でプロジェクションできる。



▲ (株) ファン・ファクトリーの知久淳一氏(左)と、onActivity Ltd. の Falcon Tam 氏。

「Dome Projection」 日本でのサービス提供開始

(株) ファン・ファクトリーは、香港・onActivity Ltd. とともにクリエイティブチーム「Aurora Projection Team (APT)」を結成。ドームスクリーンやカーブスクリーンなどに対して、複数のプロジェクターで映像を投影し、多彩な映像空間を創出する独・Dome Projection (社名およびソリューション名) の日本でのサービス提供を開始した。今回のファン・ファクトリーのブースは、この「Dome Projection」を中心とした展示構成で来場者の注目を集めた。

【Dome Projectionの主な特長】

- ① 8K 以上の解像度が実現可能なマルチのプロジェクションシステムを構築可能。
- ② 構築した画面は、ソフトウェア上で自動的にキャリブレーション可能。
- ③ 他のアプリケーションと連携してコンテンツ表示が可能。



▲ ファン・ファクトリーのブース。

- ④ タイムライン制御でのリアルタイム演出や7.1ch サラウンドおよび照明制御が可能。

【Dome Projectionの施工工程】

- ① システムデザインおよびコンサルティングでは、プロジェクションスクリーンの設計とプロジェクターの台数、またその設置位置について設定していく。
- ② 複数台のプロジェクターとそのスクリーンをセットアップするための測定用カメラを設置する。
- ③ システムから投影された幾何学的形状のデータパターンによって、ワーピング(ジオメトリ補正)の計算を行う。
- ④ カーブスクリーンのような特殊な形状の

キャンバスに合わせて、コンテンツをマッピングする。

- ⑤ 設定が完了したスクリーンを、コンテンツ再生用のソフトウェアと統合する。

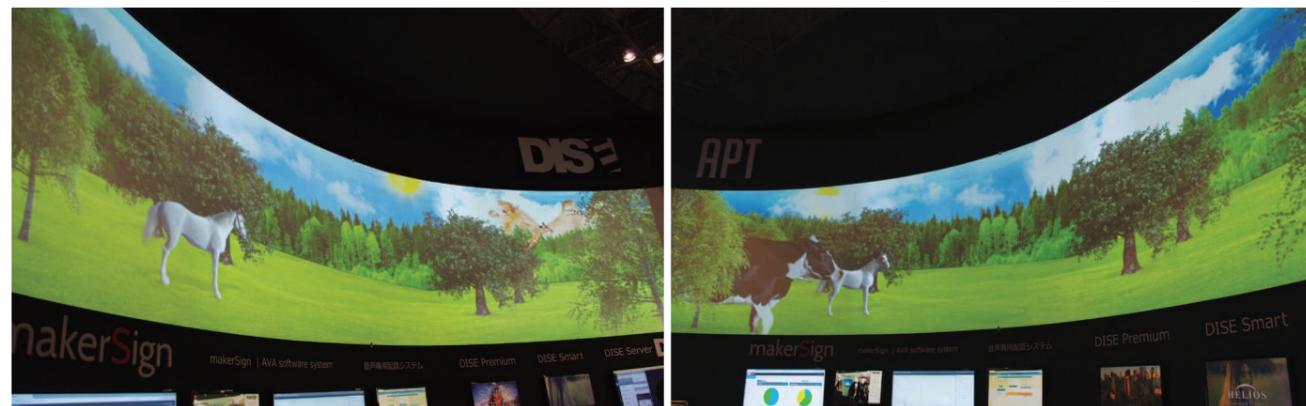
「iBeacon連動型サイネージ」と「IntelliSense」

ファン・ファクトリーのブースで注目を集めていたのは、「Dome Projection」だけではない。iBeacon を利用したデジタルサイネージ機器とスマートフォンなどモバイルデバイスを連動させた「iBeacon 連動型サイネージ」がそれだ。

アプリがインストールされたスマートフォンを持ってデジタルサイネージに近づくと、アプリがビーコン電波を受信し、サイネージの画面にウェルカムメッセージが表示される。更に近づくとスマートフォンにメニューリストが表示され、そのメニューリストから閲覧したい項目を選択することで、サイネージの画面には商品のイメージ情報、スマートフォン画面にはクーポンなどの情報がそれぞれ表示される。

「iBeacon 連動型サイネージ」は、このように利用者のアクションに応じて情報提供が行われるもので、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて需要の増大が見込まれる。

そしてもうひとつ、視聴者の年齢、性



▲ ブース内に設置された「Dome Projection」では、NEC社のプロジェクター「ViewLight NP-PA621UJL」(右下)を3台使用。メディアサーバーは7thSense Design社の「Delta Nucleus」(左下)を採用している。なお、スクリーンには、プロジェクション専用開発された、反射効率の高いアクリル成分のコーティング「screen goo」が塗装されており、投影されたコンテンツの明るさはプロジェクター本来のスペックを超えるものとなっていた。

別、表情などを読み取り、効果測定を行う「IntelliSense」も来場者の関心を集めていた。

「IntelliSense」は、香港・makerSign社のデジタルサイネージプレイヤー(Android搭載)に備わった機能であり、ビッグデータの収集や解析に効果を発揮するほか、それらの結果を踏まえて、視聴者に合わせた広告やコンテンツの提供が可能となる。



▲ iBeacon を利用したデジタルサイネージ機器とスマートフォンを連動させた「iBeacon 連動型サイネージ」。



▲ 視聴者の年齢、性別、表情などを読み取り、効果測定を行う makerSign の「IntelliSense」。

問い合わせ
(株) ファン・ファクトリー
東京都八王子市東町 5-5
ハルズ八王子ビル 8F
Tel.042-631-1316 Fax.042-631-1317
http://www.funfactory.co.jp

onActivity 代表 Falcon Tam 氏のコメント

様々なイメージを大きなエリアで表現したいとなったときに、ドームプロジェクションならどんなかたちでも対応できます。最も特徴的なのは、半円球タイプのドーム型スクリーンであること。このスクリーンと複数のプロジェクターを使えば、どんな大きなイメージでも表現することができます。

香港では、不動産のショールームで、マンションを買いに来られたお客様にドームプロジェクションを提供しています。マンションの完成前に、コンピュータグラフィックを使って、実際にそのマンションに住んでいるかのようなイメージを与えることで、お客様にはより一層興味を持ってもらえると、好評を得ています。

今回はたまたま不動産だったのですが、ドームプロジェクションは他の産業でも適応できると思います。実際にはないものを実際にあるかのように感じただけの事です。

我々はこのドームプロジェクションを、システムデザインから施工、キャリブレーション、ほかのシステムとの統合、そして、再生、コントロール、保守まで、トータルなものとして提供していきたい

と思っています。博物館やテーマパーク、展示会、店舗、コンサートホールなど是非使っていただきたいです。

今後、日本では、ファン・ファクトリーさんに窓口となっていただき、施工やキャリブレーション、全体的なサポートを行ってもらうのですが、あくまで我々はチームです。チームとして、皆様により良いサービスを提供していこうと思っています。

我々は、ドームプロジェクションを一時的なものではなく、常設的なものとして提供したいと思っています。通常、常設となると、メンテナンスが必要となってきます。しかし、そこにたくさんのマンパワーをかけてはいけません。

例えばプロジェクターに触れてしまい、映像がずれてしまったとしても、ドームプロジェクションならボタンを一つ押すだけで、自動的にキャリブレーションしてくれます。DSJ2015では、そういった優れた機能をお見せできたと思います。

日本市場においては、まずは皆さんの記憶に残るような常設展示を行って、多くの方に興味を持っていただきたいです。

